

履歴書

2012 年 5 月 1 日現在



ふりがな		かとう たくま	
氏 名			
加藤 琢真			
出身地	年齢	※	
愛知県一宮市	(満 30 歳)	男・女	
参加した NICE ボランティア	分野		
国際ワークキャンプ グループワークキャンプ 週末ワークキャンプ	福祉、医療、農業、教育		
場所 (国・市町村まで記入)	イタリア、モンゴル、インドネシア、インド、ウガンダ、日本(中野)、日本(清瀬)、日本(日の出)		満足度
受け入れ団体	NICE, UPA, MCE, IIWC, FSL など		活動のやりがい度
			90%
			70%

こんなボランティアでした

最初のワークキャンプではエコビレッジ作り、そしてその後は孤児院で英語や日本語を教えるボランティアをしました。そのうち、国内の養護施設での週末ワークキャンプに参加するようになりました。大学のサークルと共催でグループワークキャンプもインドネシアで行い、ストリートチルドレンへの健康教室や売春宿街での活動を行いました。ウガンダではヘルスセンターのボランティアを行いました。

年齢	経歴
18	愛知県立一宮高等学校卒業
19	慶應義塾大学医学部入学
25	慶應義塾大学医学部卒業
25	長野県厚生連佐久総合病院初期研修医
27	慶應義塾大学医学部小児科学教室
30	NPO 法人 GLOW 代表理事
趣味・特技	サッカー
座右の銘	どんな時でも前のめり
参加までの旅行経験・ボランティア経験	
最初のワークキャンプが初海外、初ボランティアでした。	

記入上の注意 1 : 鉛筆以外の黒または青の筆記具で記入。2 : 数字はアラビア数字で、文字はくずさず正確に書く。

3 : ※印のところは、該当するものを○で囲む。

志望動機

最初のワークキャンプに参加したときは、ただただ「海外でのボランティア」に憧れて参加しました。勝手にかっていいものだと思い込んでいました。

行くまでに心配だったこと（どう乗り越えたか）

集合場所までに無事たどりつけるか、英語は通じるのか、ということが不安でした。気合で乗り越えました。

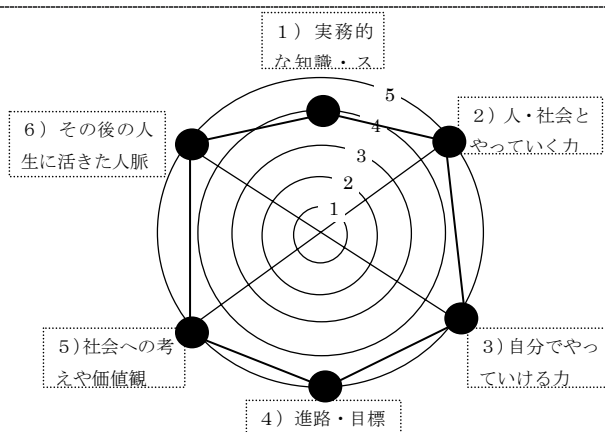
家族・友人・学校・職場の反応（私はこうやって説得した!）

最初のワークキャンプはイタリアだったので、親もあまり反対しませんでした。途上国になってくると、反対されるようになり、ウガンダに参加するときは一番反対されましたが、最後は強引に行かないと納得できないことを延々と説きました。

ワークキャンプとその後の人生（進路決定、参加経験が役立っていること等）

自分は医師を志すために、医学部に入った時には日本の地域医療に貢献できればと思っていました。しかし、ワークキャンプに参加して、特にウガンダのワークキャンプでエイズとエイズ孤児の現状に直面して自分の志が大きく変わりました。勿論、日本での貢献も忘れていませんが、もっと目を向けるべき人たちが地球上にはいると強く衝撃を受け、将来医師として、国際協力の道に進むことを決めました。ただ進路に影響しただけではなく、リーダーシップや様々な価値観など今自分で大切にしておきたいものの多くはワークキャンプを通じて得られました。

成長ダイアグラム ※



これから参加を考えている人へ、熱いメッセージを♪

迷ったりやっていることだと思います。常にチャレンジし続けることで、たくさんものが見えてきます。そして自分が一番生きる道を見出せるのだと信じています。ぜひ自分だけのワークキャンプライフを作り、その後の人生の礎として下さい。応援しています。

※成長ダイアグラム（5＝とても得るものがあつた・良くなった。4＝まあまあ得るものがあつた・良くなった。3＝前と変わらなかった。影響なし。2＝前よりもやや劣るようになった・悪くなった。1＝前よりもずっと劣るようになった・悪くなった。）